



## ご挨拶

春とはいえが肌寒い日が続きます。万作の小さな花びらが少し開いてきています。会員の皆様には、恙無くお過ごしのことと拝察いたします。

皆様のご協力のお陰で平成14年度の事業も予定通り終わる目処が立っています。毎年が新しいことへの挑戦ですが、関係各位の最大限のご努力により新事業を消化してきています。この紙面を持ちまして、心から感謝申し上げます。来年度も新たな事業を立ち上げるべく計画中です。また、15年度は前年度に比して、OECAに強いフォローの風が吹くことが予測されます。また、環境カウンセラーの新合格者からの新戦力が加わることを期待しています。

なお一層の会員各位のご協力をお願い致します。

理事長 高井 茂

## “ 脱温暖化モデルプロジェクト事業 ”

この事業は、環境省から受託し、昨年10月から大阪市西淀川区内50世帯に省エネナビ、エコワット等の5点セットを配布し、省電力量10%削減を目標として実践している事業です。

地球温暖化対策法に基づく地域協議会の運営、講習会、環境家計簿、エコライフチェック、啓発パンフ、アンケート、省エネナビ等による意識啓発とエコライフ実践等を実施しました。会員各位のご支援により事業を展開してまいりましたが、いよいよ省エネナビのデータ収集・解析等を行い、3月末に環境省へ提出する報告書を作成する運びとなりました。

今後とも皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

(島林)

## “ なにわエコライフ ” 受託事業報告

大阪市より受託した“なにわエコライフ”は、OECAが分担した12区について、6月に説明会、9月に“がんばってる会”をそれぞれ各地区保健センターで実施してきました。

1月21、22、23日の3日間、OECAと大阪市地球環境センターリーダー会、家庭の環境管理・監査人協会の講師陣の連携で、各担当地区の提出されたチャレンジシート約600名全員にコメントを書く作業が行なわれました。

その後も、会員の協力を得てデータのパソコンへの入力作業が続き、この事業も終盤にさしかかりました。3月24日には認定フェアが開催され、認定の要件をクリアされた参加者へ、市長名で認定証が付与される予定です。

(宇田)

## 主要部門の活動報告

### 地球温暖化防止活動部門（部門長 阪野 喬）

#### 平成14年度省エネルギーセンター助成事業完了

省エネルギーセンターの助成事業である「平成14年度省エネ環境移動実験教室」が、1月31日、和泉市立鶴山台南小学校を最後に今年度の事業を終了しました。

地球温暖化防止部会をはじめ関係者の皆様、約40名の方々のご協力により、今年度は省エネ実験教室を22校実施し、小中学校生徒約1500名、教師約100名が参加しました。

また市民向け実験教室を7回、環境家計簿講座12回を実施することができました。

省エネルギーセンターによる当事業は今年度で終了となりますが、今後はNEDOの直屬事業として継続されるように聞いておりますので、機会がありましたら来年度も再度申請する予定です。その節はまたご協力の程お願い致します。

### EMS 普及部門の活動について（部門長：宇田吉明）

#### 環境活動評価プログラム（E A 2 1）インストラクター研修会

今年度は後半になってから、エコアクション21が動き出しました。昨年支援した大阪産業廃棄物協会の各社へのフォローから始まって、11月は大阪市内の中堅企業の支援により、5事業所が同時に取り組み、登録申請しました。また、滋賀環境カウンセラー協会と連携して滋賀県の事業所の支援も実施中です。

一方、E A 2 1のインストラクター研修会も11月に続いて、3月15日に実施し、今後の展開に備えています。今回の研修内容は、E A 2 1の最新情報・大阪府エコアクション宣言について・E A 2 1手順の解説・ワークショップを予定しています。

E A 2 1は今年大幅に改定される見込みで、飛躍が期待されています。

## 会員の活動報告など

### 「私が入り組む竹資源有効活用事業化による グリーン市場の構築」

（財）オイスカ関西総支部参与

O E C A 監事 森 義信

21世紀の地球資源の中で、天然資源としての竹材は3～5年で急成長することから、持続可能な再生資源として有効利用の期待が高まりつつあります。それは、木材と比較して竹の素材からは多くの効能を生み出すことが分かっていますが、日本では市場化につながっていません。原因は、高度成長とともに竹の代用としてプラスチック製品等の台頭がありました。

そのため日本国内の各地の竹林の殆どが管理されずに放置されたままの状態、里山や山林破壊の被害を出しています。

一方、人間生活等に不可欠な筍の木材は、建築資材や紙の原料等に消費されていますが、森林伐採につながり、砂漠化や地球温暖化の要因となっています。伐採を抑制し森林を保全するには代替資源が必要です。

国内で放置された竹林を「育林管理」し代替資源として有効活用することは「グリーン調達」の有望品となり「新たなグリーン市場」が構築出来ると確信しています。

### （財）地球環境センター（G E C）

技術評価部会にO E C A 会員が参加

O E C A 副理事長 阪野 喬

1991年、国連（UN）の国連環境計画（UNEP）第16回管理理事会において、途上国等における環境上適正な技術の適用、運用、応用の促進を目的とした「UNEP国際環境技術センター（I E T C）」の設置が採択され、I E T Cは地球環境保全に関する国際機関として大阪（都市の環境問題の管理）と滋賀（淡水資源の管理）に事務所が誘致され1994年から活動しています。

また、G E CはUNEP支援法人として1992年に設立され、UNEP国際環境技術センター（I E T C）の活動を支援しています。

この度、UNEP-I E T Cの途上国における環境上適正な技術（E S T : Environmentally Sound Technology）の環境面からの検証（EVT : Environmentally Verification of Technology）を行う技術評価部会がG E C内に設置され、9名の委員のうち、O E C A 会員（山本エコサポート、宇田コスモエコロネット、阪野技術士事務所の各氏）が委員として参加、水、廃棄物、エネルギー分野の技術評価を行っています。

## ますます高まる環境カウンセラーの役割と更新制度の改善

理事 鹿島 啓

中央環境審議会（中間答申）「環境保全活動の活性化策について」が、発行されました（平成14年12月17日付）。環境保全活動の活性化の上で、環境カウンセラーに対する期待が述べられています。環境カウンセラーとOECAの活動として参考になりそうな記述を紹介し

### 1. 環境カウンセラーに関する記述箇所

「様々な環境保全活動のそれぞれについて助言・指導を行うことのできる人材を登録する環境カウンセラー制度や...がある。...しかし、せっかくの制度が十分に活用されていない。」

「公的な制度である環境カウンセラーや各種の推進員、指導員制度の相互の役割分担や、それぞれの位置づけ及びあり方については、...それぞれの役割を整理、明確化し、これらの人材が円滑に活用、登用されるようにすることが考えられる。なお、環境カウンセラー制度については、現行の研修・更新の考え方を、活動実績が評価されるような仕組みに改善することを検討すべきである。」

### 2. OECAの活動として参考になりそうな記述箇所

環境保全活動を支援するための拠点として、「運営にNPOが参画する方法、運営全体をNPOへ委託する方法などを十分に検討する必要がある。また、環境省が担うべき全国的な支援については、...全国9箇所ある地方環境調査官事務所が、同様の機能を担うことが考えられる。」

### 3. 所感

環境保全活動にたいする環境カウンセラーへの期待が大きく、今後、各自の活動実績に基づく更新制度に変更される可能性があります。

日常活動に関しては、OECAが現在すすめている「近畿地区環境対策調査官事務所」との連携がますます重要になります。

OECA活動もこれからますます活発になりますので、私たち会員が積極的に参画し、実績をつんでいけば、持続可能な地域社会（Sustainable Community）の実現におおいに貢献できることになると思います。

## グリーン購入で環境経営の推進を

理事 吉村 孝史

大阪環境カウンセラー協会に講演の依頼がある中で、このところグリーン購入に関する要請が目立ってきた。それは地方自治体だけでなく企業からもアプローチがあるようになった。

内閣府の世論調査では、消費者の約8割がグリーン購入に心がけているという結果が示された。循環型社会形成のためには、環境物品等の供給面の取組みを強化することに加え、その環境物品等に対する需要を確保する事が重要であり、グリーン購入法がH13年4月から完全実施され、14分野152品目が特定調達品目となっている。

組織が循環型社会に適応して行く中で環境経営を進めて行く為には、グリーン購入の取組みは当事者が主体的に取り組み、内容が具体的であるということから、手をつけやすい面がある。その内容は環境への負荷の少ない製品・サービスの購入とその調達先の環境管理システムの構築を推奨することである。購入するという力を背景に間接的に影響を与えるので取組み内容が主体的で具体的なものになる。適切な環境情報の提供（コミュニケーション）も積極的にすすめるべきではない。

## インターネットとE-mailの世界

理事 山本 泰三

インターネットはどのようなものか、見様見真似で付き合ってきましたが、ようやく数年先のイメージが明確になってきました。ユビキタスネットワーク（いつでも、どこでもつながっている）の状態が安価で使える時代になったのです。

常時接続しないインターネットは電話料金が気になって使いこなせず、また通信速度の遅さに我慢できない状況が続きました。これではインターネットとはいえないのです。コンピューターを24時間常時接続すると大変使いやすくなります。

私は最初自宅にCATVを導入し、次に事務所にADSLを導入して常時接続を実現しました。月々、新聞代と同じ数千円の費用を払うと、世界中のコンピューターと繋がり、追加費用なしで自由に情報を見られるのです。日本でもこのシステムが昨年末に700万件以上普及したのです。ソニーの出井会長が最近出された「非連続の時代」には、「インターネットは恐竜時代に落ちた大隕石と同じで、これを避ければ絶滅するだけ\*」とありました。OECAではいち早くホームページを活用した連絡が進んでいます。E-mailを含め活用が不十分と思われる方は、まず、常時接続への投資をして下さるようお勧めします。

\*編者注：「約6500年前に巨大隕石がメキシコのユカタン半島に落ち、急激な環境変化に対応できなくなった地球上の恐竜が絶滅してしまった。現在に於いてこの隕石に相当するのがインターネットだ。インターネットという隕石が落ちてきたので、我々企業や国も自ら変化していかなければ恐竜みたいに滅びてしまう。では隕石が落ちないとうなるか。隕石が落ちないと環境変化も起きず、日本だけが没落することになります。隕石が落ちて恐竜が絶滅する頃、新しい環境に適応した哺乳類が誕生することになる。」（同書より）

## すいた環境教育フェア2003の開催

吹田支部 長澤弘一郎 小林正中

昨年開催された「すいた環境教育フェア2002」ではOECAからも省エネ実験を始め人形劇や各種展示など出展し好評を得ました。

本年もまた吹田市を中心に環境省、大阪府他、諸団体の後援を得て吹田市役所、メイシアターなどを会場に行われる予定です。OECAでは実行委員会にも参加させて頂き、斬新な企画の立案を検討中であります。会員の皆様の積極的な発案をお願いします。

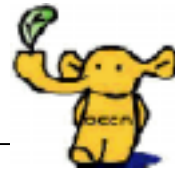
なお、開催日は6月20、21日と決まりましたので会員皆様のご参加をお願いします。

## 事務局よりのお知らせ

事務所を下欄の住所に移転しました。机やイスなどの備品を会員の方々からの提供・ご協力で、ようやく整備が整い小会議などは事務所で出来るようになりました。

どうぞ、皆さんご利用ください。また、電話、FAX番号が変わっています。よろしくお願い致します。(長澤)

TADICS



## 「ワン・ワールド・フェスティバル」

1月11日(土)、12日(日)大阪国際交流センターで開催され、OECAも昨年に引き続き参加した。

例年のように多くの方々に参加され、出展は協力関係にある市民団体も含め、地球温暖化実験教室、環境人形劇、環境紙芝居、自然工作、環境家計簿付け方コーナー、パネル展示などです。他に環境カウンセラーの猪上さん家族によるペットボトルの工作、前田さんによる燃料電池も参加しました。



OECA総会は5月17日(土曜日)を予定しています。

15年度以降の3~5年を見越しての事業計画・編成・事業の立ち上げをするためのすべての内容を検討中です。会員の皆様にご意見を頂くことも多いと思います。その節は積極的にご建議ください。

R大学講師派遣の件、今回は山本泰三さん・阪野喬さんがOECAから参加されます。大学側のご意向が、「できるだけ少人数の講師で、幅広い内容の講義を」との事でしたのでこのようになりました。

**編集後記**：もう早くも年度末になってしまいました。世間では、本年度は総ての分野で変化・改革が求められて来たにもかかわらず、中々うまく行かないのが世の中のような感じです。本号レターは毎号の常連の記事だけでなく、違った方々の、新たな知見情報や随想等の投稿があり、少し変化が出て来た様に思えます。今後も会員広い層からの投稿をお待ちしております。(小林)

(このニュースレターは再生紙を使用しています)

発行者：NPO法人 大阪環境カウンセラー協会

住所：〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24

piaNPO 411号

TEL:06-6599-0600 FAX:06-6599-0607 e-mail:oeqa@mw.0038.net <http://osaka-eca.infoseek.ne.jp/>

発行人：高井 茂

